

11月13日の団体交渉について報告します。

## ○ 冬季賞与1900万円減 ○

冬季賞与について会社から提示がありました。以下は期間満了者のみの数字です。

	2008年	2009年	減額率
支給総額	127,383,993	108,389,919	-14.9%
うち特別支給額	5,262,000	4,692,000	-10.8%
特別を除いた額	122,121,993	103,697,919	-15.1%
期間満了者	153人	167人	

昨年同一人(2008冬&2009冬とも期間満了者)

支給額	2008年	2009年	減額率
総合職	900,084	730,846	-18.8%
一般職	568,642	465,163	-18.2%
不同意	765,317	630,089	-17.7%
全社員	833,177	677,761	-18.7%

平均支給額	2008年	2009年	減額率
総合職	908,347	702,217	-22.7%
一般職	562,839	441,350	-21.6%
不同意	765,317	630,089	-17.7%
全社員	832,575	649,041	-22.0%

支給月数

2009年	最高	平均	最低
総合職	2.56	2.14	1.40
一般職	2.33	1.96	1.45
不同意	2.31	1.89	1.40
全社員		2.10	

夏季賞与の大幅減について何ら説明をしなかった会社が、冬季賞与でも大幅減の提示をしてきました。前回の団体交渉で示された2009年8月末の決算では、役員報酬が年間で1300万円増加していました。今回の団交で、この点について追求しました。会社は昨年11月の、今枝部長の取締役就任および小松原取締役の副社長昇格によるものとの説明でした。1300万円の内訳を聞きましたが、団交に出席した誰も金額を知りませんでした。役員報酬は小松原代表が決定していて、経理責任者である西井取締役も知らないそうです。会社は、室生数減や経営環境の悪化を理由として社員の賞与を減額し、社員および講師の昇給を圧縮し続けてきました。その一方で、取締役を増員し、昇格人事を行ってもよいのか問いただすと、決算と人事は別だとか、昨年11月の時点では赤字の予想ではなかっただとか。まったく説明になっていないので、これでは到底納得できないとの強い抗議に対して、会社側は一旦退席して相談しました。しかし、それ以上の説明はできずに、この件は次回へ持ち越しとなりました。

## ○ 講師契約更改 ○

契約更改問題に先立ち、10月7日の台風休講時の支払いについて説明を求めました。台風で休講になった時点で開始しているコマについては全額A時給で支払う約束でしたが、10月の明細では、休講時点よりB時給で計算されていました。これは、講師部のミスであることを認めさせ(いったい何回ミスすれば気が済むのでしょうか?)撤回させました。また、契約更改に関して、昇給幅の50%カットを再考して元に戻すように要請しました。

## ○ 次回団体交渉 ○

10月25日(水)午前10時より、神戸国際会館(三宮)で次回団交が行われます。小松原代表が役員報酬を決定しているのなら、代表が団交に出席して説明すべきです。昨年11月の時点で赤字決算を予想できなかったとしても、経営陣が見通しを誤ったのは明らかです。その責任を取るためにも役員報酬を返納してでも、賞与の厳格幅を圧縮し、講師の昇給幅を昨年並みに戻すべきです。

こんなやり方を黙って見過ごしてはいけません。みんなで闘いましょう。